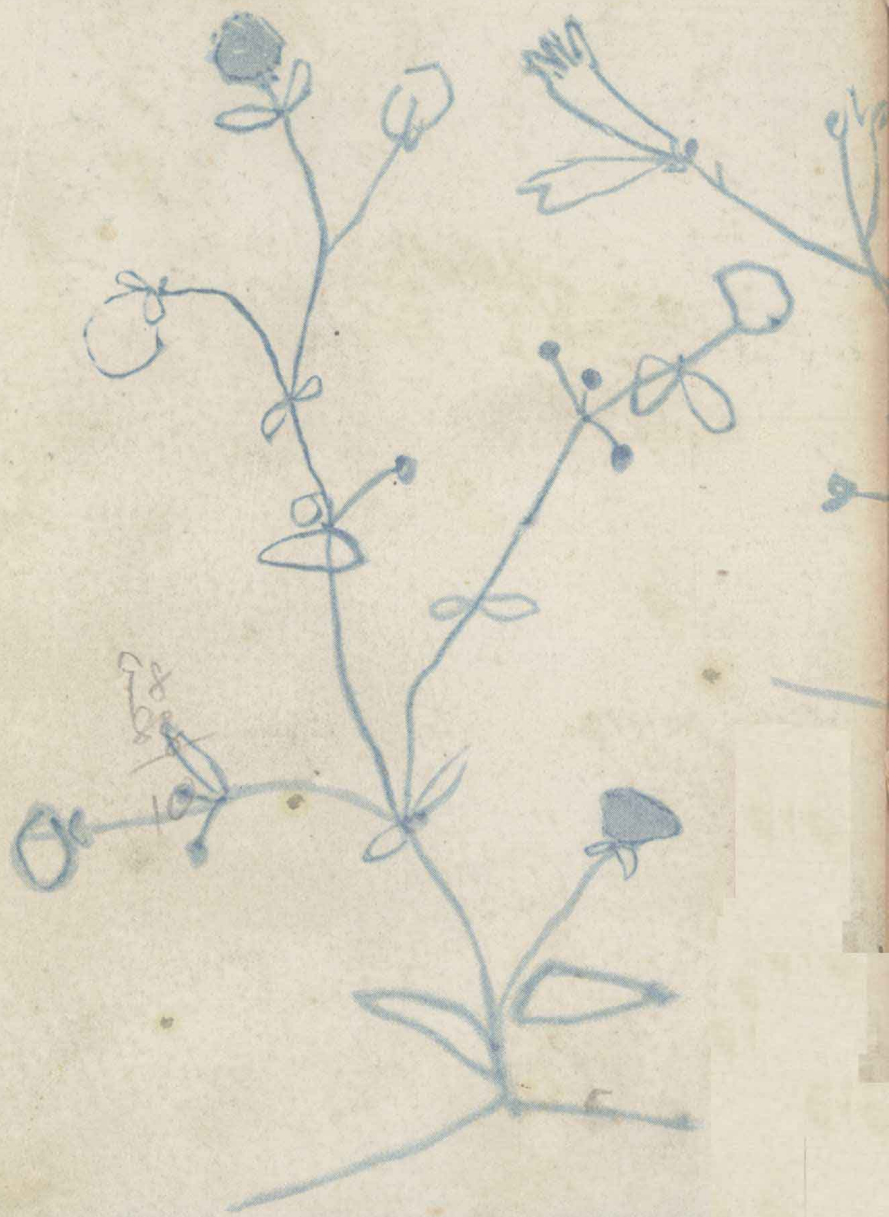




寶文館版

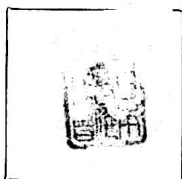
えり子と
ともに

3

えり子とともに

第3部

¥ 150



昭和二十五年八月十日 印刷
昭和二十五年八月十五日 發行

著者 内村直也
編者 日本放送協會

東京都中央区横町一ノ三

發行者 寶文館

代表者 大葉久治

東京都新宿區山吹町三二

印刷者 早坂善太郎

三惠社印刷所

發行所

株式會社 寶文館
東京都中央区横町一ノ三

振替口座東京二八〇
電話京橋二五二五番

序

ラジオドラマのはかなさは、誰でも知っているとおり、ある夜の電波を動かして、そのまま消えてゆくことである。藝術に志すものは誰しも無意識の間にでも不朽性をめざしている。そのためであろうか、日本の劇作家でラジオドラマと眞剣にとくんだ人はいなかつた。アメリカのマクリーシュやビネーのような大詩人が放送劇をかいたという先例も聞かず、況んやアーサー・ミラーやアーサー・ローレンツのような未來の劇作家が放送劇から生れ出たという噂も聞かない。

恐らく放送劇に注ぐ熱情のただ一つの例外は内村直也氏であろう。同氏の『蹙音』というラジオドラマ集は、純粹の音の世界にひそむ無限の可能性をわれわれに教えてくれた最初の戯曲集であつたと言える。むろんそれはラジオ小劇場というような言葉の暗示する開拓者精神のみちみちたもので、何よりさきに、それは一つの「實驗」であつた。放送劇作家としての内村氏は、『えり子とともに』において、初めてほんとうの姿を示した。

『えり子とともに』を聞いて、何よりも驚かされることは、この作者がラジオドラマという媒

体を十分に知りつくして、それを存分にあやつっていることだ。もう新手を生みだそうという虚榮心もなければ、ラジオドラマを書くんだという意識すらもない。作者の頭にある想念が浮びあがると、それがえり子という主人公とともに、空間と時間との中を自由自在にかけめぐり、散文から詩へ、詩から散文へと移行してゆく。

つまり『えり子とともに』のよさは、ラジオドラマを感じさせないところにある。えり子は作者のつくりものでなく、水曜日の夜だけにわれわれを訪れてくる家庭の一員なのである。彼女は「近代女性」というような一つの観念でなくて、とんでもないときに肝癢を立てたり泣きだしたりする一つの生きものである。だからわれわれは、えり子にいろいろの期待を寄せているが、その期待はたびたび裏切られ、しかもそれは實現されるであらう。

それがつまり幸福というもののなのである。

一九五〇年七月

山 本 修 二

えり子とともに

第三部

白い花・赤い花



放送記録

企 劃 堀 江 史 朗
演 出 永 山 弘
演出助手 秋 山 弘
音 樂 芥 川 也 寸 志
シヤンブル・
ノ ネ ッ ト
効 果 岩 淵 東 洋 男

配 役

河 村 え り 子	阿 里 道 子
河 村 壯 太 郎 (父)	小 澤 榮
轟 佳 代 子 (姉)	七 尾 伶 子
々 春 夫 (義兄)	久 米 明
々 健 兒 (甥)	木 下 喜 久 子
し め の (ばあや)	渡 邊 富 美 子
國 部 夫 人	堀 越 節 子
々 芳 郎	臼 井 正 明
佐 藤 よ し 子 (同級生)	加 藤 道 子
石 塚 博 士	小 杉 義 男
石 塚 壽 子	尾 崎 勝 子
坂 田 常 雄	汐 崎 紹 三
保 田 川	永 井 智 雄
湯 紳	春 日 俊 次
	宇 野 重 吉

放送年月日

昭和25年4月5日より6月
28日迄、毎週水曜夜9時15
分より9時45分迄第1放送
にて。

目次

序	山本修二
コロの死	一
カスタード・プディング	元
ある晴れた日に	三五
親父銀行	五三
劇場にて	七
母の日	七

ある曇り日に……………101

夢科行……………111

グラジオラス……………113

青年二人……………115

えり子の周囲……………117

二人のために……………118

えり子是非……………121

あとがき……………122

コ
ロ
の
死

えり子とともに 第二十五回

悲しい祈りが 私の閉ざした眼を掠め
 て行つた…… 傷いた時間が流れてゆく
 …… せめて 苦しむお前を見ないよう
 に閉じた二つの瞳のあることを 知つ
 ておくれ……

— え り 子 —

子供	僧侶	レヤ テイ ズ	ハム レッ ト	王妃	園部 夫人	しめ の	えり 子
A B C D							



テーマ音楽。

効果 犬の啼聲。(人にじやれる時の表現)

えり子

コロちゃん！ コロちゃん！

効果 再び犬の啼聲。……次第に遠くに。

アナウンス

(犬の啼聲を裏に聞かせながら)「えり子とともに」第
二十五回……内村直也作、芥川也寸志作曲、云々。

(アナウンス終了後も、犬の啼聲を暫く續けて静寂に
なる)

音楽 始まる。コロの死によるえり子の悲しみを表現

するもの。

えり子

コロが死にました。可愛い、コロちゃんが死にました。
本當に死んでしまったのです。……もういいのです。

音楽 台詞の終了と同時にぐつと盛り上つて、フェイ

ド・アウトする。

効果 雨戸をとん／＼叩く音。

えり子

なんだろう？ とあたくしは、お蒲團の中で、思いま
した。夕べは遅くまで、本を讀んで寢たのでとても眠い
のです。それに、雨戸の上のガラス戸から洩れてくる戸
外の光りを見ても、いつも起きる時間よりまだ餘程早い
ことが分ります。

効果 再び雨戸を叩く音。

えり子 電報かしら？ 電報ならばお玄關の呼鈴ベルを押しそうな

ものだわ。……第一、お玄關からでなくつて、お庭の雨戸を叩いてるのが、訝おかしいわ。……あたくしは、なんだか少し怖くなってきました。若しかしたら、ドロボウ、じやないかしらと思つたからです。……あたくしは、しめののお部屋へ行きました。ふすまを開くと、しめのはもう起きていて、着物を着換え終えていました。……（しめのに語る調子になつて）ばあやさん、なんだか變な音がするのよ。

しめの あ、お嬢さまもお聞きになつたんですか？……わたしもね、どうも變な音がすると思ひましてね。……よつほど此のまゝ出て行こうと思つたんですが、萬一のことがあるといけないと思ひまして、着物だけ着たところなんですよ。

えり子 そう。訝しいわね……。

しめの もう、音がなくなりましたね？
えり子 さあ……？

効果 遠くで叩く音。

しめの ああ、やつぱり自家うちですね。
えり子 おや、……なにか云つてゐるわ。……一寸ばあやさん黙つていらつしやい。

——間——

子供A （非常に遠くで）お姉ちゃま、……お姉ちゃま！
えり子 あ、呼んでるらしいわ。……訝しいな。……ハ―イ、只今ッ。

効果 えり子としめのが、慌てて廊下を走る足音。

えり子 (こわごわ) どなたですか？

子供A (雨戸の外で) お姉ちやま、お姉ちやま！

えり子 あ、彌つちやんじやないの？

しめ のーんだ、平山さんの彌つちやんじやないですか。

えり子 彌つちやん、いま、戸を開けるから一寸待つてね。

効果 雨戸を開ける音。

えり子 彌つちやん、お早よう。……どうしたの、こんなに早く。

子供A (かん高い聲で) お姉ちやまね、……コロちやんがね、

死にそうなの。

えり子 えッ、なんですつて、コロちやんが！

子供A え、彌つちやんのお家のお庭でね、コロちやんが死

にそうなの。

えり子 コロちやんが、コロちやんが……。あたくしは、もう

どうしていゝか分らなくなりました。コロちやんが死に

そうだ。あのコロちやんが……。そんなことが、一體あ

つていゝものだろうか？……あたくしはうる／＼しなが

ら、それでも、寢室に行き、パジャマの上に、羽織をひ

つけてみたのですが、此の恰好ではどう考えても、家

外に出ることは出来そうもありません。……慌わてて、

羽織をベッドの上に放り投げて、外套を着ました。……

そして、あたくしは飛ぶようにして、平山さんの家へ駈

け出したのです。

音楽 えり子の駈ける描寫。

えり子 小さな竹の裏木戸のところまで来ると、もうそこから

コロの姿が見えました。廣い朝の庭隅に、前脚で身體を

支えるようにして、ちよこなんと坐っていました。

子供A (少しオフ・マイクより) お姉ちやま、早く！ 早く！

音楽 えり子の心理描寫を含めて、犬の傍にかけつけ

る表現、寸時。(効果に近いようなもの)

えり子

コロちゃん、どうしたの！ コロちゃん、どうした

の！……あたくしは思わず両手に抱きました。そして、

しめの
コロの長い顔に頬を押しつけたのです。

えり子
お嬢さま、コロちゃんは一體どうしたんでしようね？

ねえ、ばあやさん、すぐに病院へ連れていかなければ

駄目よ。

しめの

病院は何處でございましたかしらね？

えり子

遠いのよ。抱いていけるかしら？

しめの

お嬢さまいらつしやいますか？

えり子

ええ、あたくし行くわよ。

しめの

でもお嬢さま、その恰好じやお出でになれませんよ。

——間——

えり子

あゝ、そうだったと思いました。あたくしは、自分が

パジャマのまゝで、よその家へ來ていることにやつと氣がついたのです。……どうしようかしら、あたくし……

家へ行つて着物取換えてこようかしら？

しめの

それじゃ、ばあやが参りましようか？

えり子

その聲を背中であきながら、あたくしは、靜かに、コ

ロの顔を両手で挟んで、仰向けてみました。……あゝ、

もう駄目だ！ あたくしは一瞬そう感じたのです。コロ

の澄んだ二つの瞳の中には、もう恐ろしい死の色が、一ぱ

いに擴がつていたからです。……

しめの

あ！ お嬢さま、もう、駄目じやないんでございます

か？

えり子

コロ！ コロ！ 死んじや駄目！ 死んじやいけない

い！……コロはその眼で懐かしそうに……本當に懐かし

そうに、あたくしの顔を見ているのです。……コロ！

コロ！ 死んじや駄目！ 死んじやいけない！……コロ

はその眼で、二年の生命の最後の喜びを、あたくし一人

に注ぐように、微笑みかけているのです。……そして、

もうその次の瞬間には、がくつと長い首を傾けて、横に倒れてしまいました。……死んでしまったのです。

音楽 死の表現。(ベールギユント「オーゼの死」の

如きもの)……音楽を暫く聞かせて、その裏に

えり子の台詞を、

えり子

(表面に出ず、背景として悲痛に叫ぶ)コロ! コロ!

死んじやいや!……コロ! コロ! 死んじやいや!……

……コロ! コロ! 死んじやいや!……(泣きながら)

あゝ、コロちゃん死んでしまった! コロちゃんが死

んでしまった!

音楽 少し低くなつて、

しめの

お嬢さま、お嬢さま、お医者さまへ連れて行つても、

もう仕様がございませんね。

音楽 再び表に強く出て、フェイド・アウト。

えり子

コロは、あたくしの胸の中で、まるで生きている時と

同じように、可愛い、優しい眼をして、あの世へ行つ

てしまったのです。……コロは生きていたかつたに違

ありません。コロは苦しかつたのです。コロは苦しさを

まぎらすために、一晩中、そこいらを駆け廻つたのに違

いありません。……そしてこんな所に來たのでしよう。

でも矢つぱり、獨りでは死にきれずに、あたくしが来る

のを心待ちに待つていたに違いないのです。……昨日の

夕方まで、あんなに元氣がよかつたコロちゃん、いつも

のようにあたくしに甘えてお寝みをしたコロちゃん、一

晩のうちに死んでしまふなんて、一體どうしたつていう

んでしよう!

しめの

お嬢さま、さあ、もう歸りましょう。いつまでも、こ

こにいては御迷惑ですよ。

えり子

えゝ。……

しめのお嬢さま、そのまゝ抱いてお歸りになりますか？
えり子

ええ。……あたくしは、抱いたまゝ立上ろうとしました。いつもなら、樂々と抱いて歩けるコロだったのですが、どうした譯でしょうか、そのまゝではどうしても、立上れないのです。……生命のなくなったコロは、もはや、虚しい肉體として、あたくしにのしかゝつて來るからなのでしょうか。それとも、あたくしの悲しみが、あたくしの腕や腰から、急に力を抜き取つてしまつたからなのでしょうか？

しめのお嬢さま、さあ、これに乗せて連れて歸りましょう。

えり子 しめのは易々とコロを抱いて、庭の上に乗せました。

……そして、あたくし達は、その庭の四つ隅を握つて、自家へ運びました。

音楽 少量。

えり子 コロは、自家の大小屋の前に、新しい庭を二重に敷い

た上に、横になつていました。朝の温い陽ざしが、小屋の一番奥の處まで届いていました。そして、その柔かい一本一本の毛なみを透して、肌の色まで浮き立たせていました。それは、丁度遊び疲れたコロがいつものように、ゴロンとお午睡でもしているようにしか見えませんでした。……雨あがりの道を苦しんで駈け廻つたためでしょう。その投げ出された脚は、附根のところまで、ドロ／＼に濡れていました。……あたくしは、泣きながら、丁寧に一本一本拭いたのです。……チンチンをしたあんよ、オテ、をかけたあんよ、悪いことをして叱られるととても困つた顔をして、ゴメンナサイを云うように、あたくしの肩を叩いたあんよ！……まるで生きているようなのです。いまにもむくつと起き上つて、ワンワン！と吠えてくれそうですね。……小さな名札のついた皮の首輪！此の頃めき／＼肥つてきて、ホツクの最後の處でも間に合わなくつて、新しい穴を開けてやつたばかりなのに……。あれは、たしか、池袋の驛で買

つたんだと思うわ。もうじき、お前のお誕生日が来る。

その時には、お祝いに、池袋へ行つて新しいのを買つてあげようと思つていたのに……。でもそれまでに、また太つたら、とても苦しくつて可哀想かしら、つて思つていたのに……。あたくしは、コロの首から、その首輪をはずしました。……そうだわ、お前の生れたのは、一昨年おととしの五月五日、鯉のぼりが空を泳いでいたわ。……学校から歸つてきたら、園部さんの小母さまからお電話がかゝつたんだわ。

園部 (電話の聲) えり子さん?……お約束したもの、お願

け出来てよ……取りにいらつしやらない?

えり子 なあに、小母さま、お約束したもので、なりました

かしら?

園部 あら、えり子さん、忘れておしまいになつたの? イ

ヌの子よ。一週間前に生れたの。

えり子 あ、ほしいほしい。……なん匹生れたの、小母さま?

園部 四匹。

えり子 まあ! 可愛いでしょうねえ。

園部 え、とても可愛いいのよ。……あのね、えりさんあなたの外に二人お預けする約束した方があるんで、取りに来て頂くことになつてゐるんですけど、どれをどなたにつて決める譯にもいかなから、早く来て下さつた方から、順にお持ちになつて頂きたいのよ。

えり子 小母さま、直ぐに行きます。一番可愛いいの、えり子に残して置いて……。

園部 四匹ともみんな可愛いいのよ。

えり子 でもその中でも一番可愛いいの。

園部 (笑つて) あたしには分らないのよ、どれが一番可愛

いいのか。

えり子 ……あたくしは、勉強もピアノのお稽古も、ほつぽり

出したまゝ、小さなバスケットをしめのに搜し出して貰

つて、家を出たんだわ。……そして、通りの自轉車屋さ

んに行つて、女乗りの赤い自轉車を借りて、そのハンド

ルのところに、バスケットをぶら下げて、一目算に、小